

IAUD Newsletter vol.14 第8号(2021年11月号)目次

1. 衣のUDPJオンラインセミナー「サステナブルなフェーズフリーデザイン」開催報告・1
2. TEAM EXPO 2025 共創パートナー事業 オンラインセミナー開催のご案内…………… 6
3. 第23回UD検定・初級及び第14回UD検定・中級 オンライン開催のご案内…………… 6
4. IAUD 11月の予定……………7

毎日の生活を安心して豊かに暮らせるために

開催報告:衣のUDPJ オンラインセミナー「サステナブルなフェーズフリーデザイン」



「日常時」と「非常時」という2つのフェーズをフリーにするフェーズフリーな社会

誰もが着る喜びを実感できる社会づくりを目指して活動している衣のUDプロジェクトは、2022年度におしゃれで機能的、安心・安全で非常時にも役に立つ「フェーズフリーウェア」の研究を予定しており、その一環としてオンラインセミナー「サステナブルなフェーズフリーデザイン」を10月21日(木)に開催しました。

当日は「私たちの命や生活を守り、安心して豊かに暮らせる商品、サービス、社会をつくるには？」をテーマに、一般社団法人フェーズフリー協会代表理事の佐藤唯行氏による講演が行われ、ファッションやデザイン、教育機関、メディアなどの関係者23人が参加しました。

佐藤氏にはフェーズフリーに関してわかりやすくお話していただき、気づきの多い大変有意義なセミナーとなりました。

今号のNewsletterでは、講演概要を同プロジェクトの森秀男主査が報告します。



講演者の佐藤代表理事

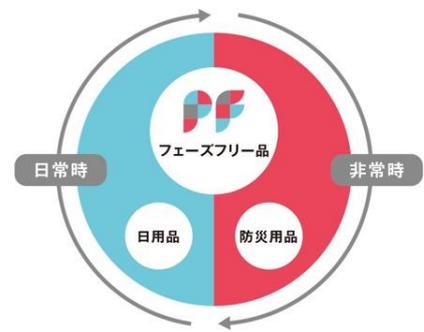
平常時・非常時どちらにも役立つ「フェーズフリー」

日本は、集中豪雨や台風、地震、津波など災害が多発している災害大国です。2011年の東日本大震災を機に防災意識は高まりましたが、備えがなかなか進まないまま被害が繰り返されています。それは日々の生活に追われ、「何をどのくらい備えれば良いのか分からない」「非常時にしか役立たないものにコストをかけられない」などの課題があるからです。

このような問題を解決するために、身のまわりにある物やサービスを平常時や災害時などのフェーズに関わらずどちらにも役立てる「フェーズフリー」という考え方が生まれました。

「防災」は非常時に「備える」を前提にしていますが、フェーズフリーは日常時・非常時を区別することなく「備えられない」を前提にした新しい考え方です。

毎年繰り返される災害被害を軽減するには、行政の対応にも限界があります。私たちは被害を自分で防ぐと自覚し、日常使っているものがそのまま災害時にも生かせるような暮らし方を実践していくことが求められています。そのため、フェーズフリーの商品やサービスを増やすことが必要です。



日常時・非常時に活用できる
フェーズフリー品

私たちの命や生活を守る「フェーズフリーデザイン」

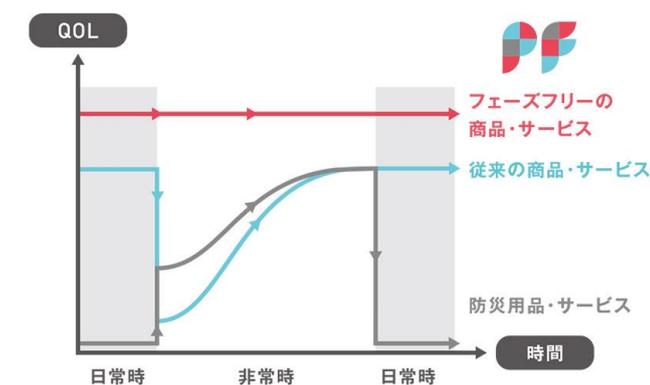
フェーズフリーという概念を具体的な商品やサービスに展開していく上で、デザインの力がとても重要になります。

「フェーズフリーデザイン」とは、日常時・非常時の区別なく QOL(生活の質)を確保する商品やサービスを実現するデザインです。

災害大国といわれる日本で、防災に備えながらデザイン価値を高め、毎日の生活を安心・安全に暮らせる良い方法の答えが、「フェーズフリーデザイン」にあります。

※「フェーズフリーデザイン」詳細及び事例集は[こちら](#)をご参照ください。

持続可能な価値提供を実現



フェーズフリーデザインが提供する価値

日用品は日常時に、防災用品は非常時に利用できるものである一方で、フェーズフリーの商品やサービスは、日常時も非常時もフェーズを越えて活用することができます。

上図のように、一般的な商品やサービスは非常時へとフェーズが移った際に QOL 提供が下がり、防災用品・サービスは日常時には価値が発現していません。

一方、フェーズフリーの商品やサービスは日常時や非常時といったフェーズに関わらず、QOL を高く維持することができています。つまり、フェーズフリーでは持続可能な価値提供を実現できるので、防災の領域が魅力的なビジネスにもつながるのです。

価値提供デザイン例として、近年のヒット商品である「プラグインハイブリッド自動車(PHV)」があります。一般車に比べ、PHV 車は日常時にはエコロジーやエコノミーという価値を提供し、非常時には電源供給という価値も提供できています。

フェーズフリーデザインに必要な4つの視点

フェーズフリーな社会の実現に向けて商品やサービスを開発するには、新たな手法やデザインプロセスの検討が必要となります。

フェーズフリーデザインには、以下の4つの視点を意識することが有効です。

・WHY: プロBLEM

さまざまな災害や被害の要因となる危機を想定。大規模な自然現象から軽度な人災まで、その内容は多岐にわたる。

・WHERE: ロケーション

屋内・屋外、家・ビル・施設や山・海などの自然、街やエリア、国や地球規模などさまざまな場所を想定。

・WHO: ターゲット

年齢・性別・国籍、対象者の状況など、その商品やサービスを利用する人を想定。

・「WHEN: タイミング」

日常生活は災害が発生した途端に非常時へと移行する。「①災害予知・早期警報」「②災害発生」「③被害評価」「④災害対応」「⑤復旧・復興」の順に想定。

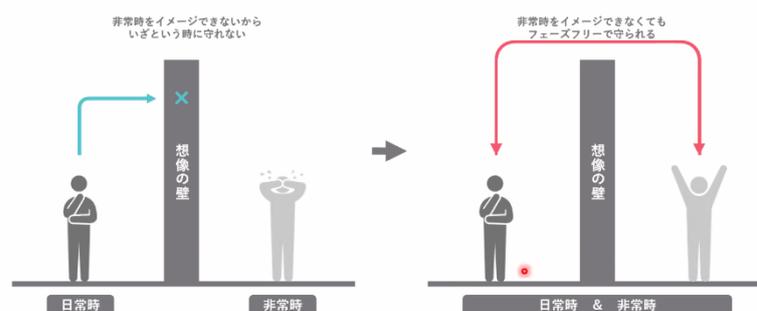
フェーズフリーで2つの課題解決

講演で最も興味深く、しかもフェーズフリーの核心をつくトピックは、洪水や集中豪雨、津波などの非常時に自動車から脱出するための防災用品「脱出ハンマー」の事例でした。

先の尖った金属製で、窓ガラスを叩いて壊せる「脱出ハンマー」は国産の一般自動車の標準装備にはなっていないため、ユーザー自身で購入する必要があり、多くの市民が備えていないのが現状です。そのために、大変残念なことです毎年多数の命が失われています。

脱出ハンマーに限らず、なぜこういう事態となっているかを考えることが、フェーズフリーデザインを理解する上で欠かせないと痛感しました。

私たちの多くは日常のことには強い関心を持っていますが、いつ起きるか分からない非常時については想像するのが難しく、そのままやり過ごしているのではないのでしょうか。実はここに重大な落とし穴があることに気がつきました。



想像の壁を乗り越え日常時・非常時に利用できるフェーズフリー

フェーズフリー協会では、日常時と非常時との間には高く分厚い「想像の壁」が存在しており、日常時に非常時を具体的に想像できないので、どうしても「備え」続けることが難しくなっていると注意を呼びかけています。

そこで、日常時の生活や命を守るには、日常時に利用している商品やサービスがそのまま非常時にも使えるようにデザインすれば、問題は解決する筈です。つまり、非常時をイメージできなくてもフェーズフリーの商品やサービスで守られるのです。ここにフェーズフリーデザインの重要な存在意義と価値があります。

この課題の解決のために、脱出ハンマーと一般的な USB カーチャージャーを融合・ドッキングした「フェーズフリーUSB カーチャージャー」が開発されました。



フェーズフリーUSB カーチャージャー

脱出ハンマーとしても使えて、モバイルの USB カーチャージャーとしても使えるようにすれば、「想像の壁」を商品が自らの力で飛び越え、これまでは救えなかった命を救える可能性が高まります。

さらに、価格も脱出ハンマー単品とほとんど変わらないので、フェーズフリーUSB カーチャージャーを購入する確率が高まり、魅力的なビジネスとしての可能性もあります。

脱出ハンマーの事例は、その他のさまざまな分野でのフェーズフリーデザインの商品やサービス開発に大変参考になる考え方となっています。

フェーズフリーなファッション

すでにフェーズフリー商品としての機能・価値を持つアパレル商品は存在するものの、これまで「フェーズフリー商品」として認知されることがほとんどありませんでした。

あるアパレル企業では 2022 年に、帽子から靴までフェーズフリーの機能・価値をトータルファッションとして提案していくとこのことで、今後アパレル業界でもフェーズフリーデザインの成長が期待されています。



走れるビジネスシューズ

また、他の取り組みとしては、ビジネスシューズとスポーツシューズを融合した「走れるビジネスシューズ」の紹介がありました。これは、フォーマルな外見は保ちつつ歩きやすさを実現したデザインで、地震などで帰宅困難になった際に非常に有効です。

災害時にも役立つ UD ジャケット紹介

講演の最後に、衣の UD プロジェクトより 2012 年に製作した災害時にも安全で日常着としても役に立つ「UD ジャケット」が紹介されました。

当初は多機能なジャケットとして開発しましたが、2011 年の東日本大震災後に災害時にも役立つ要素も備えた UD ジャケットに変更し、結果的にフェーズフリーなデザインとなりました。

多くのポケットや収納ボックスを作り、避難時に多くの防災品を入れるように配慮してあるほか、フードには衝撃を和らげるショック・アブソーバー、袖口や肩には光を正反射する再帰反射テープを備え、夜間の安全性を高めました。



災害時にも役立つ UD ジャケット

「フェーズフリーウェア」研究開始

佐藤氏の講演の後、参加者とのディスカッションタイムがありました。

参加者からは、「大変勉強になった」「衣服など自分の身の周りにあるものの意味や根本的な価値とは何かを考えさせられた」「生活者の立場からものを所有することや、使うことの意味を吟味しなければならないと思った」などの感想がありました。

今回のセミナーではフェーズフリーを深く理解でき、フェーズフリーデザインの重要な役割と今後の可能性の大きさを強く確信しました。

衣の UD プロジェクトは、今後もフェーズフリーデザインに関する情報収集を行い、2022 年度からは「フェーズフリーウェア」の研究をする予定です。

PHASE FREE WEAR

これからの社会環境や生活状況の変化を新しい視点で把握し、よりクリエイティブな研究開発を続けていきます。

衣の UD 普及活動冊子「衣・着るⅢ 衣とイノベーション編」にフェーズフリー掲載

より多くの人に衣の UD を理解してもらうため、同プロジェクトは 2021 年 7 月に冊子「衣・着るⅢ 衣とイノベーション編」を発行しました。

本冊子は新しい技術開発とデザイン、社会環境、生活スタイル、マーケットとの関係性などを研究する目的で編集され、5 つあるサブテーマの 1 つを「衣とフェーズフリー」としました。

災害発生時に速やかに命を守る行動ができる服や、視認性が高くおしゃれで安全性の高いウェアなど、日常と非日常を区別しない服を紹介し、災害から身を守る「フェーズフリー服とフェーズフリー社会を創る」という今後のプロジェクトの活動方針を示しています。

本冊子をご希望の方は IAUD 事務局までご連絡ください。

※冊子「衣・着るⅢ 衣とイノベーション編」発行を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



冊子「衣・着るⅢ」

ポストコロナ時代の共生できる街づくりを考える

TEAM EXPO 2025 共創パートナー事業 オンラインセミナー開催のご案内

IAUD 研究部会内に 2021 年 3 月に新設された「EXPO2025 特別プロジェクト」は、2025 年に大阪で開催される「2025 年日本国際博覧会(以下:EXPO2025)」の参加型プログラム「TEAM EXPO 2025」共創パートナーの活動として、オンラインセミナー「ポストコロナ時代のユニヴァーサルな街づくり～EXPO 2025 を見据えて～」を 11 月 11 日(木)に開催します。

セミナーでは新たな生活様式が求められているポストコロナ時代において、多様な生活者と共生するユニヴァーサルな街づくりをテーマに、有識者をお迎えしての講演とパネルディスカッションを行います。

要参加登録・無料で、登録は 11 月 9 日(火)までです。皆様のご参加をお待ちしております。
※オンラインセミナー詳細及び参加ご希望の方は[こちら](#)から参加登録をお願いします。
※「TEAM EXPO 2025」共創パートナー認定を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



(左から)ご登壇いただく川内美彦氏、松田圭洋氏、池坊専好氏、中尾洋子氏

UD 在宅で好きな時に UD 資格習得

第 23 回 UD 検定・初級及び第 14 回 UD 検定・中級オンライン開催のご案内

IAUD は「第 23 回 UD 検定・初級」及び「第 14 回 UD 検定・中級」をオンラインで開催します。

「UD 検定・初級」は、UD に関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30 分・50 問)のセットです。問題はすべてオンラインで受講した講習内容から出題されます。

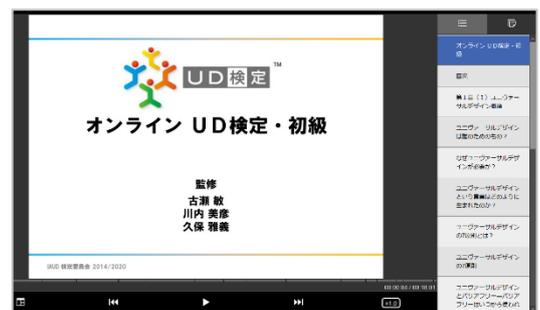
「UD 検定・中級」は、力試し問題と UD 検定・中級試験(70 分・129 問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」(A4 判 263 ページ)に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に検定試験をお受けください。

「第 23 回 UD 検定・初級」の申し込み受付は 11 月 11 日(木)まで、「第 14 回 UD 検定・中級」申し込み受付は 12 月 23 日(木)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「第 23 回 UD 検定・初級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「第 14 回 UD 検定・中級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第 1 回 UD 検定・初級」開催報告を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



「UD 検定・初級」オンライン講習画面



IAUD 2021年11月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3 文化の日	4 第14回 UD 検定 中級申込受付開始	5	6	7
8	9	10	11 14:00～ TEAM EXPO 2025 共創パートナー オンラインセミナー 第23回 UD 検定 初級申込受付締切	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 勤労感謝の日	24	25 14:50～ 衣の UDPJ オンライン会合	26	27	28
29	30 10:00～ CM 字幕 PJ 字幕プレビュー会					

次号は12月上旬発行予定

特集: TEAM EXPO 2025 共創パートナー事業 オンラインセミナー開催報告ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net